

海外自治体幹部交流協力セミナー2011 (ニューヨーク事務所管内) の開催報告 ～宮城県の東日本大震災からの復興施策をテーマとして～

交流支援部交流親善課

1. はじめに

「海外自治体幹部交流協力セミナー」は、CLAIRにある7つの海外（ニューヨーク、ロンドン、パリ、シンガポール、シドニー、北京、ソウル）事務所管内の自治体幹部職員等を日本に招へいし、地方自治の現状と課題について意見交換及び情報交換を行うことにより、互いの地域の地方自治制度等について理解を深めるとともに、各海外事務所管内の自治体幹部職員等と CLAIR 及び国内の地方自治体とのネットワーク構築を推進することを目的として毎年開催されています。

今年度、ニューヨーク事務所管内の受入自治体は「宮城県」ということで、昨年1月に決定していました。ところが、3月11日に東日本大震災が発生し、その開催が危ぶまれました。しかし、受入自治体である「宮城県」自身が「目覚ましく復興している現状を見てもらいたい」との力強いお言葉をいただき、今回「東日本大震災からの復興施策」を新たなテーマとして、本セミナーが開催されました。以下、簡単ではありますがその報告をさせていただきます。

2. 日程

2011年10月23日（日）～2011年11月1日（火）【10日間】

3. 内容

【1日目】来日

アメリカ合衆国・カナダから自治体幹部の方々8名が12時間以上の長旅を経て、日本に到着されました。日本に初めて来られた方が多く、初対面でしたがみなさんとても気さくに明るく接してくださいました。

【2日目】東京セミナー

GRIPS（政策研究大学院大学）の畑山准教授から日本の地方自治について学んだあと、総務省消防庁の石山対策官より、今回の消防庁の応急体制と広域消防応援について、多くの情報を盛り込んで伝えていただきました。参加者からは講義後に質問が飛び交い、制度に対する関心の高さを伺わせました。また、東京消防庁の古賀消防司令からは、現場の立場から実際の震災の映像も交えて、消防活動についてお話いただきました。生々しい映像の数々に衝撃を受けた参加者も多くいました。



東京セミナーの様子

【3日目】地方交流事業（宮城県）

いよいよ宮城県に到着。県の方々はお忙しいところ大変温かく出迎えてくださいました。宮城県庁到着後、宮城県副知事を表敬しました。

その後、宮城県から、東日本大震災による被害状況及びこれまでの対応、原発事故の影響と女川原発の対応状況、宮城県震災復興計画についてお話をいただきました。

次に仙台市副市長を表敬し、仙台市副市長より仙台市の被災状況とこれまでの対応についてお話をいただきました。

参加者からは被災状況から災害対応、震災復興計画策定に至るプロセスまで詳細なプレゼンテーションがあり、大変わかりやすく、有意義だったとの声がありました。



宮城県副知事表敬



宮城県から概況説明

【4～5日目】被災地視察（南三陸町、石巻市、仙台空港、仙台港等）、意見交換

車窓から今なお色濃く残る津波の爪痕を目の当たりにしながら、南三陸町役場に到着しました。庁舎が流されたため、仮庁舎の中で南三陸町の被災状況の説明を聞き、その後、津波の被災現場に実際に立ち、自らも被災し、生き残った町役場の職員の方から当時の状況を説明していただきました。参加者からは「今回の津波被害を振り返り、何を一番の教訓にすべきであったか」との質問がありました。答えは非常にシンプルで、「とにかく逃げること」でした。今回の津波では、過去に被災したことのある地域の住民は逃げて助かりましたが、ここ数十年被災した経験のない地域の住民は逃げ遅れ、結果多数の命が失われたとのことでした。「大津波警報」はみんなの耳に届いていました。しかし、その警報を聞いても「自分は大丈夫だろう。ここまで津波はこないだろう。」という意識がありました。そういった住民の意識を変えること、そして、この災害を教訓として、蘇ったその意識を忘れてしまうことのないようにすることが一番大事なのだとの言葉が、重みを持って参加

者の耳に響いたようでした。

石巻市では、市役所で津波が町を飲み込むビデオを見せていただいた後、まさにその現場を見学することができ、参加者に強烈な印象を残したようでした。また、石巻最大の仮設住宅団地も外から見学させていただき、仮設住宅に住む被災者の自立支援についての考え方やコミュニティの形成など熱心な質疑が行われました。

石巻市では、今回の被害の状況そして復興に至るプロセスを明らかにするため、検証レポートを作成し、情報共有したいとの発言があり、参加者からも、今回被災地が体験した1,000年に1度の大災害を世界の教訓とするため、日本のみならずぜひ世界に向けて発信してほしいとその趣旨に大いに賛同する声があがりました。

宮城県庁に場所を移しての意見交換会后に、今回の災害については、地震被害・津波被害・浸水被害・原子力発電事故などさまざまな被災体系があり、それぞれに復興への対策も異なり、その復興へのプロセス自体が最大の教訓であり、こういった情報共有については、石巻市や南三陸町、宮城県だけであるというよりは、岩手県や福島県など他の被災県も含め、国として取り組むべき課題ではないか、国への要望が必要な課題ではないかといった話題も出ました。

参加者からも、それぞれの復興計画が1年後、3年後どういう結果をたどるかについて非常に興味深く思っているようでした。



南三陸町仮庁舎にて



南三陸町被災地視察



石巻副市長表敬

【6日目】宮城県内視察（観瀾亭、瑞巖寺、円通院見学）

秋晴れの気持ちのよい天気のもと、6日目は松島に出かけました。松島はとてものどかで穏やかで、ほとんど津波の被害が感じられませんでした。それは松島湾内に点在する島々が緩衝材となり、津波の勢いを弱めたためとのことでした。それでも例年に比べ観光客は減少しているとのことで、正しい情報提供が宮城県の復興につながると感じました。参加者も松島を心ゆくまで楽しみ、日本文化等についても理解を深め、今後の地域間交流の契機となりました。



観瀾亭（抹茶体験）



松島にて

【7～10日目】東京視察、離日

浅草、江戸東京博物館、国会議事堂、池袋防災館などを視察しました。セミナー終わりの頃には参加者同士もすっかり打ち解け、セミナー最終日の夜は、楽しく思い出深い時間となりました。



国会議事堂にて



池袋防災館（消化体験）



セミナー最終日夜

4. おわりに

参加者を代表してダニエル・ガチエン氏が、「宮城県には美しい観光資源もあり、経済の発展・復興のためのポテンシャルもある。職場に戻っても学んだ情報を共有し、復興に必要な情報があればフィードバックさせていただきたいと思う。今回見たこと・聞いたことを、日本や宮城県の大使として国に帰ってから述べ伝えていく。今はフェイスブックやツイッターなどもあるので、情報の共有はうまくできると思う。そしてそういったつながりがこれからの復興に役立つと信じている。日本で『絆』という言葉を学んだ。人とのつながりが、今そして未来の私たちを強くさせてくれていると思う」と述べられました。この言葉に本セミナーの意義が集約されていると思いました。

最後に、お忙しい中受入れを快く引き受けていただいた関係自治体の方々に心から感謝を申し上げますとともに、その心が参加者の胸に響き感動を与え、さらなる友好のきっかけにつながる結果となったと確信して、本セミナーの報告とさせていただきます。